

専大スポーツ

【専大スポーツ】
https://www.senshu-u.ac.jp/sports/

No. 465



専大初の快挙

2分を超える熱戦を制し、連覇を飾った棚内(左)

専大スポーツ

編集部公式WEB

掲載記事を含む全文はコチラ↑

@sensuponow

Instagram sensuponow

棚内 連覇

75kg
未満級

全国学生相撲個人体重別選手権大会 8月31日、千代田区・靖国神社相撲場

専大からは東日本学生相撲個人体重別選手権大会で出場権を得た4人が出場。75kg未満級で棚内陽向(商4・弘前実業高)が専大初の連覇を成し遂げた。同階級の連覇は大会史上2人目の快挙。前回王者として難なく決勝へ駒を進めた棚内は、昨年の決勝でも対戦した日大の清宮健史選手と激突した。互いに手の内を知る中、激しい立ち合いを見せると、膠着状態が続く。それでも、相手を土俵際まで追い込み、

約2分にも及ぶ大熱戦を寄り倒して制した。棚内は「ただただ、うれしい。父が地元の青森県から応援に来てくれたので、優勝する姿を見ることができて良かった」と満面の笑みを浮かべた。今大会の結果、11月の全国学生相撲選手権大会(インカレ)の出場権を得た。昨年はけがの影響もあって不完全燃焼に終わり、「けがをしないようにインカレに向けて頑張りたい」と意気込んだ。(竹田一爽・文4Ⅱ写真)



優勝盾を手に笑顔の棚内

東日本学生相撲個人体重別選手権大会(7月27日、靖国神社相撲場)では、100kg未満級の山田珠大(文3・埼玉栄高)が準優勝した。今年度、多くの試合に出場し経験を積んだ山

山田 準優勝
東日本学生相撲個人体重別

G63kg級 島崎 F61kg級 向田 F79kg級 高原

初優勝



喜びを爆発させる島崎

撮影：竹田

全日本学生レスリング選手権大会 8月21日、24日、世田谷区・駒沢オリンピック公園総合運動場体育館
グレコローマン63kg級で島崎翔悟(文4・高知)が、フリースタイル61kg級で向田旭登(経営4・花咲徳栄高)、同79kg級で高原崇陽(経済4・高山西高)が、初優勝に輝いた。島崎は、徳比嘉未仁選手(日体大)との決勝戦に逆転勝利。実力や実績

では相手の方が上だが、グラウンドに対してのディフェンスができたことが勝利につながったと喜びをあらわにした。向田は、決勝の残り1分で奪ったポイントを守り切って栄冠をつかんだ。「優勝できてうれし



優勝を勝ち取った高原(左)と向田
撮影：門前咲良(文3)

い。自分らしい攻めのスタイルを貫くことができた」と自信を覗かせた。高原は「今までずっと2位や3位だったが、大戦で中大と対戦した。試合は、互いに点を取り合う激しい展開となったが、第4クォーターの連続得点でリードを広げ、17-11で勝利。3年連続

専大は、筑波大との準決勝に惜敗し、3位決定戦で中大と対戦した。試合は、互いに点を取り合う激しい展開となったが、第4クォーターの連続得点でリードを広げ、17-11で勝利。3年連続

3年連続 3位
日本学生選手権水泳競技大会 水球競技 8月27日、横浜市・横浜国際プール
専大は、筑波大との準決勝に惜敗し、3位決定戦で中大と対戦した。試合は、互いに点を取り合う激しい展開となったが、第4クォーターの連続得点でリードを広げ、17-11で勝利。3年連続

GK小嶋が日本代表に

第11回アジア水泳選手権(10月4・10日、インド)に出場する水球男子日本代表に、GKの小嶋悠人(経営1・神奈川工高)が選出された。

4年ぶりの舞台で躍動 ベスト8
全日本大学準硬式野球選手権大会 8月20日、北海道・円山球場ほか
4年ぶりに「全日本出場」を果たした準硬式野球部が投打に躍動し、ベスト8入りした。初戦で北星学園大と対戦。高橋秀昌(法4・専大松戸高)の3安打4打点の活躍などで6-0で快勝した。続く2回戦では岡山を相手に先発の多賀谷直輝(法2・専大松戸高)が、100球未満での完封勝利(通称「マダックス」)を達成し、準々決勝に駒を進めた。



2試合に先発し無失点と好投した竹村

あと一歩及ばず0-1で敗れた。主将の竹村は「全日本出場という目標を達成できたのはうれしかったし、普段対戦することのない大学との試合で、楽しかった」と振り返った。(知地泰雅・文3)

箱根駅伝予選会 10/18 8:30スタート

10月18日(土)、第102回東京箱根間往復大学駅伝競走予選会が東京都立川市で開催される(昨年より1時間5分早い8時30分スタート)。陸上競技部は前回大会、総合2位で本戦出場を果たし、創部100周年を華々しく飾った。

「箱根駅伝でのシード権獲得(本戦総合順位10位以内)が今年の目標」と長谷川淳監督は語る。そのためにまずは予選の上位突破を狙い、本戦での飛躍を見据えたチームの戦い方に注目が集まる。前回大会を経験した新井友裕(文4・浦和実業学園高)、上山詩樹(経済3・敦賀気比高)、ダンカン・マイナ(商2・専大熊本玉名高)の三本柱に加えて、今年上半期の大会で経験を積んだ具志堅一斗(経営3・コザ高)、佐藤陸(文3・東京高)の3年次生コンビにも期待がかかる。本戦出場へ、そして悲願のシード権獲得に向けた挑戦が、間もなく始まる。(門前)



夏合宿で調整に励む選手たち